

[調査会 NEWS 383] (18.7.2)

悪者は誰か

荒木和博

金英男さんをご家族の対面、そして記者会見等を受けて日本のマスコミではその矛盾点がクローズアップされています。お姉さんの英子さんのインタビューなども流されていますが、正直なところ、「こんな間違い探しばかりやってどうするのか」という思いがしてなりません。

寺越事件の例を挙げるまでもなく、あのようなときに金英男さんが事実を話せるわけはなく、また、それを聞いたご家族が、「英男の言葉は嘘だ」と言えるはずもありません。家族の思いからすれば何としても金英男さんを守ろうとするでしょう。北朝鮮当局のシナリオに沿って言わされているのは自明の理なのに、その矛盾ばかり突いていたら金英男さんやそのご家族が悪者になるばかりです。

悪いのは拉致をした北朝鮮当局です。金英男さんにああいうことをしゃべらせている金正日体制に問題があるのであって、28年ぶりの再会で自分の感情を表現することすらできなかつた彼に罪はありません。また、彼の発言をを否定することの許されないご家族でもありません。記者会見のときとうって変わって、お母さんとお姉さんを見送るときの金英男さんの顔は必死に耐えているようでした。あるいは彼の発言は、あえて矛盾を大きくし、自らが言わされているのだということを知らせようとしたメッセージかもしれません。

ともかく報道される皆さんも、それを見られる皆さんも、本当に悪いのは誰かということをもう一度心にとめていただければと切に願う次第です。

[調査会 NEWS 384] (18.7.4)

花火大会

荒木和博

「しおかぜ」の朝鮮語ニュースで「撃ちたいのなら早く撃ちなさい」と言ったから、というわけではありませんが、今の時点で7発も撃ってしまいました。しかし、テポドン、ノドン、スカッドと、在庫総処分のように撃っている割には今一つ気合いが入りません。もっとも、日本政府も万景峰だけ入港禁止にするとか、人の出入りを制限するという程度ですから、気合いの入っていないことは同じようなものかとも思います。その分、今日の「しおかぜ」朝鮮語放送の録音には気合いが入りました。

もう北朝鮮の中は統制がとれなくなっているのでしょう。あるいは金英男さんを出してきたことなどで南北和解ムードを醸成しようとしている勢力への軍のデモンストレーションかも知れません。もちろん、12年前にジュネーブ合意で米国から軽水炉建設の約束と重油をせしめたことが忘れられないということもあると思います。いずれにしても金正日体制にプラスになることはなく（ついでに言えば盧武鉉政権にも）、事態は私たちに良い方向に進行しつつあります。

間違いなく北朝鮮は揺れています。これは千載一遇のチャンスです。この揺れを収める余裕を与えずに一気に攻勢に出しましょう。そうしなければ逆にこのチャンスがピンチになりかねません。今回のミサイル発射が後に金正日体制崩壊記念の花火大会だったと言えるようにしなければなりません。もう今年の冬は北朝鮮の地で凍えて死ぬ人が出ないように、そして、拉致被害者がご家族と正月を迎えられるように、「専守防衛」ではなく、積極的対応が必要です。

[調査会 NEWS 384] (18.7.4)

しおかぜ第二放送 周波数・放送時間変更

「しおかぜ」第二放送は明日 7 月 10 日より次のように放送時間と周波数を変更します。

22:00 ~ 22:30、9486KHz

第一放送は従来と同じ 05:30 ~ 06:00 9785 キロヘルツです。

今後北朝鮮当局からの妨害によっては追加の対策をとる予定です。

続・悪者は誰か

荒木和博

383 号のニュースで「悪者は誰か」と題して書きましたが、付け加えて書いておきたいと思います。

前に飯塚繁雄さんにお聞きしたのですが、田口八重子さんの拉致が大韓航空機爆破事件によって分かったときに、八重子さんはマスコミから事件の共犯者のように見られたそうです。

確かに、田口八重子さんが金賢姫に日本語や日本の風習を教え、その金賢姫が爆破事件を起こしたのは事実です。しかし、日本で平和に暮らしている私たちに、彼女を共犯者と呼ぶ資格のある人間はいないはずで、最も悪いのはもちろん、拉致をした北朝鮮の体制であり、次に悪いのはそれを放置してきた日本政府であり、私たち日本国民すべてです。自分自身が拉致をされて、北朝鮮当局に反抗すれば生命の危機にさらされるということになるなら、私も自分の安全を選ぶと思います。

このところ、拉致問題については金英男さんの発言などの矛盾ばかりマスコミの皆さんの関心（それはおそらく読者・視聴者の関心ということでしょう）が集中し、作業員としての印象が強く報道されているように思います。確かに、その方が報道しやすいとは思いますが、本質はそこにはありません。

もともと、北朝鮮当局の発表というのはほとんどが嘘です。私自身、大学での講義などで、学生には「北朝鮮の公式発表や報道などを読むときは、まず『これはすべて嘘である』と思って読め。そして、『彼らはどうしてこんな嘘をつくのだろう』と考えると、意外にホンネが分かる」と言っています。「労働新聞」など、間違いないのは発行の日付位と書いていた方がいいでしょう。間違い探しはいくらやってもあまり生産的ではありません。

金英男さんの発言なども、矛盾を突くより、「北朝鮮当局は彼になぜこんなことを言わせるのか」と考えた方がいいのではないのでしょうか。ともかく、彼は拉致被害者であり、北朝鮮でどんな発言をしたとしても、あるいは過去にどのような活動に従事させられたとしても、救出の対象であることは間違いありません。

北朝鮮は混乱しています。これからまた何か訳の分からないことを持ち出してくるでしょう。私たちはそれに惑わされず、一気に攻勢をかけるべきだと思います。

ちなみに、金英男さんの事件と類似したケースである寺越事件について、寺越武志さんは北朝鮮で「手記」を出版しています。題名は何と『人情の海』。もちろん、北朝鮮当局が寺越事件を拉致でないとするアリバイづくりなのですが、書かれていることを裏読みすると、事件の真相が明らかになり、また、北朝鮮当局の手口も分かります。なぜ、金英男さんがああいう発言をしたのかも分かると思います。ご関心のある方は訳文を私のブログからダウンロードできますのでご一読下さい。

<http://araki.way-nifty.com/araki/2005/05/index.html>

[調査会 NEWS 386](18.7.9)

訂正

先程お送りした 286 号で明日からの第 2 放送の周波数を 9486KHz としましたが、9485Khz の間違いです。また、本文のヘッダが「[調査会 NEWS 384](18.7.4)」となっていました。メールのタイトルのとおり「[調査会 NEWS 385(18.7.9)]」の間違いです。お詫びして訂正します。

[調査会 NEWS 387] (18.7.10)

静岡県庁ホームページに特定失踪者のコーナー設置

このたび、静岡県庁のホームページに県内の特定失踪者に関する情報を求めるコーナーが設置されました。内容はほぼ調査会のホームページと同じですが、県が独自の取り組みをしたのは初めてで、注目されています。

<http://www.pref.shizuoka.jp/kikaku/ki-28/tokutei/index.html>

[調査会 NEWS 388] (18.7.18)

松本京子さんの拉致認定を求めるデモと米子署でのやりとり

以下は妹原仁・調査会常務理事からの報告です。

6月27日、米子市内で松本京子さんの拉致認定を求めるデモが行われました。また、それに先立ち法律家の会安田弁護士と妹原が米子署を訪れ、事件について警備課長と懇談しました。

米子署ではまず安田弁護士が告発後の捜査の進捗状況を質しました。それに対し、米子署側は鋭意再調査をしているところであり、具体的な内容は捜査上の差し支えがあるとの返答。

このことに関し、安田弁護士が「何を聞いても捜査に差しさわりのあると言うが、家族にも話せないことなのか。せめてご家族にはその状況を通知する義務があるのではないか。」「事件当時に角榮（スミ サカエ）さんが傷害を受けているのだが、その時の調書は残っているのか。」との質問をされました。

「残念ながらご家族の方にも話せないことがある。その傷害事件の調書は残っていない。被害者が非協力的だったと伺っている」と警察側が回答したので、安田弁護士が強い調子で「この事件に限らず、あなた方警察という所は明らかに真犯人が分かっているような事件にはいつでも分厚い調書を作成するが、難しい事件に調書は残さない。職務怠慢のそしりは免れない」と指摘しました。「特にこの事件では初動捜査にミスがあったなどはないか」とも付け加えておられました。

録取書または覚書は残っていないのかと妹原が質問すると、あると思うと言われたので、改めて妹原が「数年前には当時事件を担当した警察官が居られたが、その方々の再度の聞き取りはどうか」と聞くと、それはすでに行っているとの回答を引き出しました。すかさず安田弁護士が「われわれはこの事件は告発状の内容に照らし拉致だと認識しているが、総合的に判断して、松本京子さん失踪事件は拉致と断定する意思は無いのか」と聞くと担当者は「我々の段階では総合的に判断するという事は無い」と答えました。

安田弁護士は「地道に捜査をされているのだから、総合的に判断してこうだと検察に送ったらどうか。地元の警察として意思を持ったらどうか」。警察はご意見は何いましてと無言のまま。

ところで地元企業の社長が北朝鮮との電話の中でマツモトさんらしき通訳と貿易の話をしたらしいが、その人は「キョウコ」と名乗ったらしいですね。と妹原が水を向けると、警察はすぐさま「ああ、平成14年の件ですね。」と回答してきた。これにはびっくり仰天してしまいました。

安田弁護士が、「金国石氏の目撃証言や今度の通訳の話などについて警察当局としては

何らかの手は打っているのか」と質問したところ、「他の国ではインターポールを通じて確認作業ができるが、こと北朝鮮に限っては加入していないので困難を極めている。」との回答にはさすがに閉口するしかありませんでした。つまり何もしないという事なんだろうと思わざるを得ないのです。

以上が平成 17 年 6 月 27 日の警察との主なやり取りです。この間警備課長は再三離席し、担当者に意見を聞いていたようでした。警察の関心はこんなものだと改めて感じてしまいました。デモには地元の連合自治会長を始め、同級生の方や安田弁護士など約 10 名が参加しました。

横断幕は手製でダンボール紙に文字を貼り付けたものですが『松本京子さんの拉致被害者政府認定を!!』と書いたものを持ち、米子駅前から市役所まで約 30 分を歩きました。参加者とマスコミ 10 名くらいと警察をあわせると 30 人位はいたでしょうか。マスコミは最初から最後までテレビカメラを回し付けてました。小さな町でこのようなデモは初めてということもあって、地元紙やテレビでは大きく扱ってくれたようです。

[調査会 NEWS 389(18.7.24)

定例記者会見のお知らせ

報道関係者各位

下記の日程で7月の記者会見を行います。ご多忙中恐縮ですが、何卒よろしくお願い申しあげます。

日時 7月31日(月) 14:00～

場所 調査会事務所3階

内容 ゼロ番台リスト発表(1名予定、関係地域 北海道)

古川さん認定訴訟の状況について

新署名用紙の発表

「しおかぜ」の現状について

他

「しおかぜ」ビラについて

しおかぜへのカンパ等支援を呼びかけるビラを用意しています(A4、カラー印刷)。配付いただける方にはお送りしますのでご協力をお願いします。詳しくは調査会までお問い合わせください。

[調査会 NEWS 390(18.7.24)

金正日は「合理的な考え方をする指導者」か

荒木和博

安倍晋三官房長官が昨 23 日、横浜市内で行った講演で、4 年前の 9.17 第 1 次小泉訪朝で金正日と会った際に「論理的な話のできる、合理的な考え方をする指導者との印象を持った」と語ったとの報道がなされていました。一瞬目を疑いましたが、特に否定のコメントもないようなので、やはりその通りなのでしょう。

しかし、もし金正日が「論理的な話のできる、合理的な考え方をする指導者」であれば、北朝鮮はこんな惨憺たる状況にはなっていません。官房長官の発言が本心であるとすれば、これはとんでもない勘違いだと言わざるを得ません。あるいは、何らかの部分的解決に向けての動きが北朝鮮との間であるのかも知れませんが、現体制が存続する限り、拉致問題の完全解決はあり得ず、結局は拉致問題の棚上げにつながるものと懸念せざるをえないというのが正直なところです。

金正日体制の存続を前提に、話し合いでやっていけば、未認定の拉致被害者の多くは見捨てられてしまいます。また、身寄りがない人であった場合など、曽我さんのように北朝鮮が勝手に出してくることは奇跡でもない限りありえません。また、外国人の拉致被害者の救出や帰国者・日本人妻、そして北朝鮮 2000 万国民の人権問題解決も、体制の維持を前提としている限り不可能です。

これまで拉致問題に熱心に取り組んできた安倍長官ですから、このような餌をぶら下げて北朝鮮当局を釣出しておいて一気に潰してしまおうという策であろうとは思いますが、あと一步で倒れるというときに救いの手を差し伸べるようなことにはならないことを願うのみです。

北朝鮮相手にはアメリカ頼みでもだめ、専守防衛でもだめです。拉致問題を自国の戦争と位置付け、攻撃は最大の防御（もちろんこれは武力だけの意味ではありません）との原則の元に手を打っていくことだけが解決の道だと確信します。

[調査会 NEWS 391(18.7.28)

記者会見について

すでにお知らせした通り、7月の定例記者会見は7月31日月曜、14:00から調査会事務所(3階)で行いますが、通常と同じく、当日10:30頃から事務所3Fにてゼロ番台公開者(1名)資料の配付と写真の掲示を行います。ただし、これもいつもの通りですが、報道は記者会見開始以降にお願い致します。

北朝鮮難民と人権に関する国際議員連盟(IPCKR)総会への参加について

表記の会議は、年に一度各国が持ち回りで総会を開催するもので、今年はモンゴルにて開催されます(昨年は日本で開催)。この総会に特定失踪者問題調査会から眞鍋貞樹専務理事も出席し、報告をする予定です。

モンゴルで開催される意味の重要性は、モンゴル国内に北朝鮮脱北者のシェルターを建設することにあります。調査会としても、モンゴルにシェルターができることによって、脱北者からもたらされる特定失踪者の目撃情報などをより多く入手することができることを期待しています。

日時：8月7日(月)

午前中 プレゼンテーション(各国NGO)

午後 パネルディスカッション、決議

場所：ウランバートル 国会内会議室

参加者の内訳：

議員連盟加盟の国会議員(日、韓、英、モンゴル、カナダ、アンゴラ、エクアドル、ブルンジ)

日本のNGO：北朝鮮難民救援基金・北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会・家族会
・救う会・調査会

[調査会 NEWS 392(18.7.31)

第 27 次 0 番台リスト

本日の記者会見で下記の方について発表しました。

長谷川文子 (はせがわ ふみこ)

失踪時期 昭和 44 年(1969)3 月 日にちは不明

生年月日 昭和 27 年 2 月 22 日

当時の年齢 17 歳

当時の身分 看護師 夜間高校生

(当時の勤務先の炭鉱病院は閉鎖、通学していた美唄市内の高校は閉校)

失踪場所 北海道美唄市

当時の住所 北海道美唄市

失踪の状況 夜の 8 時か 9 時頃、勤務先の病院もしくは通学先の高校からの帰宅途中に失踪。本人が利用していたバスの運転手の証言によれば、友人と一緒にバスに乗り、自宅近くのバス停にて一人で下車したという。これが最後の目撃情報。友人が誰かは不明。警察の捜査によっても、なんら痕跡が残っていなかった。当時、家族がテレビ、ラジオで呼びかけたが、全く手がかりはなかった。本人が勤務していた美唄炭鉱病院があった美唄炭鉱には、終戦時には最大 6000 人もの在日朝鮮人が働いていたが、終戦直後に帰国。